

### 福祉



### 教育 福祉 インクルーシブ・ラボ・プロジェクト

株式会社インテックとともに「インクルーシブ・ラボ・プロジェクト」を展開しました。「インクルーシブ」とは「あらゆる人が孤立したり、排除されたりしないよう支援し、社会の構成員として包み、支えあう」という社会政策の理念です。

ウォーキングフットボールは、障がいの有無、年齢、性別、国籍を問わず、誰もが参加できる「歩いて行う優しいサッカー」です。多様性を大切に、様々な違いを超えて一緒にサッカーを楽しむ機会を提供するとともに、心のバリアの解消や相互理解を深めることに効果があると言われているウォーキングフットボールの普及を進めます。

### 福祉 誕生日寄付 × カターレ富山

誕生日に、この世に生まれたことに感謝し、感謝の気持ちを次世代につなぐために、困難を抱えている子どもたちを支援します。カターレ富山の選手やサポーターの方々と共に、たとえ障がいがあっても皆と共に幸せに元気に暮らせる富山をめざす活動です。

自身の誕生日に、推しの選手の誕生日に。幸せな気持ちを寄付という形で。富山県内の障がい児、および障がい者手帳を有しないグレーゾーンの児童を支援するNPO法人および社会福祉法人に寄付します。寄付金贈呈には選手も参加しました。



### 2022Jリーグチャレン! アウォーズ メディア賞受賞 Be supporters! サポーターになろう!

高齢者施設の高齢者や認知症の方など、普段は周囲に「支えられる」場面の多い方が、地元サッカークラブの「サポーター」となることで「支える」存在になることを目指すプロジェクトです。「いくつになってもワクワクしたい、すべての人へ」をコンセプトに、Jリーグクラブとサントリーウェルネス株式会社が共同で推進しており、カターレ富山は2020年12月より活動しています。現在、全国約160施設・延べ約6,000人が参加するまで活動が広がっています。

敬老の日企画では、選手に対して熱いエールや感謝の言葉が記載された横断幕を掲出するとともに、カターレブルーを身に纏って選手にエールを送りました。またアウェイ金沢戦では、日帰り応援バスツアーを実施し、活動の場を県外に広げました。

### 教育 ボール寄贈

ボールスポンサーのご協力のもと、県内の学校にサッカーボールを届けます。学校の活動環境の整備を後押しすることで、青少年の健全育成を図ります。

2024シーズンは、11社の協力を得て、富山県内の37校にサッカーボール200個を寄贈するとともに、FC今治戦に、寄贈先となる学校の子供たちを招待し、ボール寄贈を記念したセレモニーを実施しました。



### 教育 環境 美化~レ! プロジェクト



### 環境 GREENプロジェクト

2022年より株式会社ゴールドウインと協働し環境に配慮した活動を展開していく「GREENプロジェクト」。その一環として、ホームゲーム会場で「GREEN CYCLE」衣類回収BOXを配置し、不要になった衣類の回収を実施しました。循環型社会構築にむけて地域の人々と一緒に環境を改善するアクションに取り組んでいます。回収した服のうち、ポリエステルやナイロン製のものは、高純度の原料に戻すケミカルリサイクルを行い新たな製品の原料としたり、ダウンウエアは新たなダウン製品の原料とするなど、持続可能な資源へ転換することで環境負荷の低減を目指しています。



### 教育 環境



### 2023Jリーグチャレン! アウォーズ メディア賞受賞 選手の汗と情熱がしみこんだ堆肥「芝~レ!」 カターレ食農プロジェクト

選手が毎日汗を流している草島グラウンド。年間約40t程度の刈草が発生しており、焼却した場合20t前後のCO2を排出すると推測されます。日本のCO2排出量は世界で総量5番目といわれており、持続可能な世界のためにCO2削減は必須です。

2021年より練習場の刈草から堆肥「芝~レ!」を製作。堆肥化する際に混ぜる炭には、北陸電力株式会社様の水力発電のダム等の流木を利用し、さらなる資源の有効活用を図りました。

また、芝~レ!を用いた食育活動である「食農プロジェクト」を展開し、未来を担う子どもたちに、作物の植え付け、管理、収穫、実食・販売までの体験を提供しました。

### 教育 福祉

### カターレ富山子どもまんなか応援プロジェクト supported by NTT西日本

カターレ富山とNTT西日本は富山県内を中心とした子どもたちにスポーツを通じた運動体験や社会交流の場を提供することで、心身共に成長するきっかけを作り、子どもまんなか社会を実現する願いを込めた「カターレ富山子どもまんなか応援プロジェクト supported by NTT西日本」というプロジェクトを立ち上げました。

2024シーズンは、Y.S.C.C.横浜戦にて、試合前にニアザピッチやエスコートキッズを体験しました。そして試合後には、県総のピッチで選手と一緒にサッカーを行いました。普段見ている憧れの選手と一緒にボールを蹴れてとても喜んでいる表情でした。



### 環境 LOVE BLUE クリーンアッププロジェクト



この街が、この海が、100年先も美しくあるために、これからも企業や行政と連携して取り組んでまいります。

富山県の海岸に流れ着くごみの約8割が県内河川を通じて海に流れ出たものと言われており、2050年にはプラスチックなどの海洋ごみの量は魚の量よりも多くなるとも言われています。カターレ富山では年間を通して街中や海岸などのごみ拾い活動を実施し、富山の綺麗な環境を未来へ繋いでいくプロジェクトを展開しています。



# 北陸を元気に！

2024シーズン  
総Action数  
47回

令和6年、北陸地域を襲った能登半島地震は、地域社会に甚大な被害をもたらしました。特に、石川県奥能登地域や富山県の一部では、家屋の損壊やインフラの途絶に加え、被災された方々の生活再建への道のりが困難を極めました。このような状況の中、カタール富山はスポーツクラブとして、スポーツの力を通じて地域社会の復興を支援するべく「北陸を元気に！」を合言葉に、さまざまな支援活動を展開しました。

## Action 1

復興支援キャラバンでは、カタール富山の選手やスタッフが被災地を訪問し、復興支援活動を実施しました。この活動は、地域住民の方々との直接的な交流を通じて、心の復興と絆の強化を目指したものです。

## 復興支援 キャラバン

### ボランティア活動

この活動では、地域住民の生活再建をサポートするため、倒壊した家屋や道路周辺の清掃、仮設住宅での物資配布など、さまざまな支援を行いました。一緒に作業を行うことや継続して活動続けることで、地域住民との信頼関係を築き、地元の方々に「一人ではない」という安心感を与えることができました。

富山県氷見市 3/10、4/20、4/27  
石川県輪島市町野地区 7/6、7/14、9/28、10/5、10/13、10/19、11/4、11/9、11/16



### 復興支援サッカー教室

復興支援サッカー教室を8月11日に富山県氷見市で実施し、地元の子どもたち約50名が参加しました。この教室では、カタール富山の選手たちが直接指導にあたり、被災地の子どもたちに笑顔と元気を届けました。サッカーを通じて、スポーツの楽しさを再確認すると同時に、復興への希望を感じてもらった場となりました。



被災地の子どもたちや地域住民を対象に、カタール富山のホームゲームに招待しました。9月14日Y.S.C.C.横浜戦にて、氷見FC、FC高岡ジュニアをご招待、11月17日ヴァンラーレ八戸FC戦にて輪島市町野地区の住民をご招待いたしました。試合観戦を通じて、子どもたちはプロ選手のプレーに感動し、地域住民の方々も笑顔を見せてくださいました。試合後には、選手たちとの交流もあり、記念撮影を行うなど、心温まる時間を共有しました。



## Action 2

## ホーム ゲーム招待



## Action 3

## 復興支援 募金活動

被災地の復興を支えるため、ホームゲーム会場を中心に募金活動を行いました。選手も募金を呼びかけ、集まった募金は、全額を富山県(厚生部厚生企画課)に災害義援金として寄付しました。サポーターの皆さまをはじめ、多くの方々から温かいご支援をいただきました。この募金が被災地の復興に役立つことを願い、感謝の気持ちを込めて寄付を行いました。

募金額  
**1,941,813円**  
(2024年12月7日時点)



## Action 4

## 復興支援商品販売

ホームゲーム会場およびアウェイゲーム(FC岐阜、松本山雅FC、AC長野パルセイロ、ツエーゲン金沢、ヴィッセル神戸、FC今治)にて被災地



を応援するため、カタール富山オリジナルの復興支援商品を作成し、販売を行いました。対象商品の売上の一部を災害義援金として寄付しました。支援商品は多くのサポーターにご購入いただき、復興支援の輪を広げる一助となりました。

### 特別プロジェクト ランドセル寄贈

8月21日、奥能登地域4市町で小学生にカタール富山オリジナルのランドセルを寄贈しました。このプロジェクトは、地震で被害を受けた地域の子どもたちに希望と笑顔を届けることができました。



### 新聞各社で大きな反響

令和6年に発生した能登半島地震の復興支援活動を展開したカタール富山。その取り組みは、新聞各社で大きく取り上げられました。「北陸を元気に！」という合言葉のもと行われたボランティア活動やサッカー教室、復興支援商品の販売などが詳細に紹介され、被災地で選手の活躍が記事を通じて広く伝えられまし

た。カタール富山の活動が単なる物資支援やイベントにとどまらず、地域に新たな活力を与えるものであることが広く認知されました。新聞各社の報道は、復興支援プロジェクトを支える重要な柱となり、活動の意義を広く発信する役割を果たしました。これにより、単発の支援に終わらず、継続的な取り組みへと繋がっています。

